

## はじめに



近年、人口の増加や急速な都市化が進むその一方で、当町においても、ひとり暮らしの高齢者世帯や核家族世帯の増加、個々の価値観や生活様式の多様化に伴い近所づきあいが希薄になり、地域の相互扶助機能も低下していると言われております。

しかし、地域には高齢者等で見守りや日常生活の支援が必要な人、子育てで孤立している親、老老介護、虐待、引きこもり等様々な課題がみられ、その課題は重複化、多様化する傾向にあり、従来の公的サービスのみでは対応が難しい状況にあります。

「住みなれた地域で安心して自分らしく暮らしていきたい」と願う住民は少なくありません。そのためにも、地域の支え合う力が必要となり、近所づきあいや自治会活動をはじめとする地域の力が今後重要となります。

このたび、地域住民の皆様とともに、行政、町社会福祉協議会、関係団体、関係機関等が協働し、地域に根ざした支え合いのまちづくりを進めていくための指針となる「第一次南風原町地域福祉推進計画」の「ちむぐくるプラン」を策定しました。

この計画は、行政が策定する「地域福祉計画」と社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」を一体として策定し、より実効性のあるものにしております。今後は、本計画の基本理念であります「ちむぐくるで笑顔あふれる福祉のまち南風原」を目指し、「南風原町に住んでいてよかった」と実感して頂けるようなまちづくりに努めてまいり所存であります。

住民の皆様方にはこの計画の主旨、理念をご理解いただき、計画の推進に参画していただけるようよろしくお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたり、多大なご尽力をいただきました「南風原町地域福祉計画策定委員会」の委員の皆様をはじめ、アンケート調査、住民ワークショップにご協力をいただきました住民の皆様並びに関係団体・福祉施設の方々及び関係各位に、心から感謝申し上げます。

平成26年3月

南風原町長 城間 俊安



## ごあいさつ



核家族化や一人暮らしなどの少人数世帯の増加等、家族構成の変容は家庭における課題解決の力が弱まり、また、個人の生活様式や価値観の多様化にともない人と人のつながりの希薄化や地域の相互扶助機能の低下など地域における福祉課題が複雑化・多様化するなかにあって本会は、平成22年度に町民はじめ行政、福祉保健関係機関等、多くの皆様のご協力を得て「第三次南風原町地域福祉活動計画～ちむぐくるネットワークプラン～」を策定し「ちむぐくるでつくる福祉のまち南風原」を将来像に掲げ、その実現に向けて各種事業・活動を実施してきました。

同計画は平成27年度を実施期間の最終年度としていましたが、今回、住民参加を基本に、行政をはじめとする関係機関・団体及び事業所等がお互いに力を合わせ「地域の共助」「公的な福祉サービス」が協働した「共に生き、支えあう地域づくり」を推進するため、新たに行政計画である「地域福祉計画」と本会ははじめ住民や民間福祉活動の行動計画である「地域福祉活動計画」が一体となった「第一次地域福祉推進計画」を策定いたしました。

なお今回、住民アンケート調査、福祉施設・関係団体へのアンケート調査、地域福祉懇談会、住民ワークショップ、第三次地域福祉活動計画評価委員会からの意見・提言等をもとに整理・分析を行い、今回の「第一次地域福祉推進計画」に可能な限り反映できるよう取り組んでまいりました。

本計画は「ちむぐくるで笑顔あふれる福祉のまち南風原」を基本理念に掲げ、3つの基本目標のもと具体的な基本施策として「行政が取り組むこと」「社会福祉協議会が取り組むこと」「住民・関係団体等・福祉サービス事業者に期待すること」と地域における「新たな支え合い」の概念を示し、住民と行政による地域福祉の推進としてまとめられています。

本計画が着実に推進され、誰もが安心して住みなれた地域でいつまでも暮らし続けることのできる福祉のまちを目指して、住民はじめ社協、行政、関係機関・団体等が協働で計画的かつ効果的に地域福祉活動が展開されるよう役職員が一丸となって努めるとともに、計画策定にあたって公私ともご多忙の折、貴重なご意見・ご提言をお寄せいただいた町民はじめ委員としてご協力下さいました関係者の皆様に心から厚くお礼申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

平成26年3月

社会福祉法人  
南風原町社会福祉協議会  
会長 大城 徳次郎

